

学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

I. 理念・目的

1. 目的・目標

(1) センター・委員会の理念・目的（目指すべき人材像，教育研究上の目的）

現在，検討中

2. 現状（2010年度の実績）

(1) センター，委員会等の理念・目的は適切に設定されているか

①理念・目的の明確化

明治大学の各学部設置される共通科目（教育の情報化推進本部，国際連携本部，資格課程委員会及び学部間共通外国語教育運営委員会のそれぞれが運営する授業科目を除く。以下「学部間共通科目」という。）の授業計画を立案し，及びその円滑な運営を図るため，教務部委員会の下に，専門部会として明治大学学部間共通科目運営委員会は置かれている。

本委員会では主に（1）学部間共通総合講座，（2）共通語学科目，（3）体育実技科目の学部間相互乗入れ等の共通科目について，他の機関との連携を図りながら検討に取り組んでいる。各学部間における科目履修，単位修得の垣根を低くし，学部間共通科目化を推進することが，本委員会の大きな目的である。

②実績や資源から見た理念・目的の適切性

理念・目的は適切に運営されている。

③個性化への対応

学部間共通総合講座は，学部設置のカリキュラムを基礎としながら，なお学部や文理の枠を越えた学際的授業を提供することにより，学生の学際的授業を提供することにより，学生の学問的視野を広げ，問題発見力や判断力を養うものである。

各々の講座は各分野で活躍するゲスト講師を招き，現代社会で話題となっている事柄，最先端のホットなニュース等をテーマに取り組んでいる。

(2) センター，委員会等の理念・目的が，大学構成員（教職員及び学生）に周知され，社会に公表されているか。

①構成員に対する周知方法と有効性

シラバス，ホームページ等で周知しており，毎年 6,000 名を越える受講者を出しているため，理念・目的は十分に伝わっている。

②社会への公表方法

社会への公開方法の代表的なものとして授業のひとつ，「シェイクスピア劇の現代的魅力」から発展した文化プロジェクトがある。講者の中から出演者・スタッフを募り，ここ数年 11 月の上旬にアカデミー・コモンにて上演しており，入場料無料にて，広く公開している。

- (3) センター、委員会等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
年3回開催する共通科目運営委員会にて検証している。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

学部間共通総合講座は学外からその分野の専門家を講師として招聘するので、多角的なものの見方ができるようになっている。

体育実技の学部間相互乗り入れは学部を超えて、幅広い種目の中から興味ある種目や所属学部では設置されていない種目について履修する機会を与えている。

共通語学科目は本学でのロシア語、スペイン語の設置科目数は少ないため、共通化によりこの科目の履修する機会をあたえている。

(2) 改善すべき点

学部の教育理念に沿ってその科目の位置付け、捉え方に差異があるのでその科目の取り扱い方、履修可能な上限単位数等については学部ごと、入学年度ごとに異なっており、また、履修者の増加に伴い履修制限や受講制限をかけている講座があるが、このことについても改善の必要がある。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

特になし

(2) 長中期的に取り組む改善計画

学部ごと、入学年度ごとに異なる履修取り扱いについて、学部による制限を取り払い、増えすぎた共通科目の見直しや体育実技の相互乗り入れも更に推進していく。

5 根拠資料

資料1 2010年度学部間共通総合講座シラバス

資料2 明治大学ホームページ

II. 教育研究組織

1. 目的・目標

(1) 教育研究組織の編成方針

本委員会では、各学部のカリキュラム改革の取り組みと連動し、学生により多様で豊かなカリキュラムを提供することを目標に、学部間共通総合講座の拡充、語学・体育科目共通化の推進を目指している。

2. 現状（2010年度の実績）

(1) センター、委員会等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

①教育研究組織の編成原理

明治大学共通科目運営委員会では以下の様に定めている。

この委員会は次に掲げ津委員をもって組織する

- 1) 教務部長
 - 2) 副教務部長
 - 3) 各学部の教授会から推薦された専任教職員各1名
 - 4) 教務部委員会が必要と認めた授業科目を担当する選任教員 若干名
- 運営委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

②理念・目的との適合性

社会の制度や仕組みが大きく変化するなかにあつて、本学の教育理念・目的は「個性を大切にし、自立心の強い人材を育成する」ことにある。

学部間共通総合講座は、この教育理念・目的に基づいたカリキュラムの編成をしており、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生諸君に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うことを主眼としている。本学の全ての学生にとって有益となるテーマをそうした趣旨のもと多様に設定している。

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

年3回開催する共通科目運営委員会にて検証している。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

各学部教授会から推薦された委員の他、教務部委員会が必要と認めた、授業科目を担当する委員が委員会に出席しているため、問題が起こったときには速やかに対処ができる。

(2) 改善すべき点

特になし

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

特になし

(2) 長中期的に取り組む改善計画

多様な科目設置機関（学部、資格課程、教育の情報化推進本部、国際交流センター、学部間共通外国語運営委員会及び学部間共通科目運営委員会がある。）による科目群・科目数が全体として調整されずに設置され、科目の細分化が進行していくならば、お互いに守備範囲が重なってくる危険性がでてくる。

学部間共通科目運営委員会の中を考えると、上記の学部間共通外国語と共通語学との関連、学部間共通総合講座と学部設置の総合講座との関連等について取り組んでいく。

5 根拠資料

資料1 2010年度 中・長期教育・研究年度計画書

Ⅲ 教員・教員組織

1. 目的・目標

(1) センター、委員会等の求める教員像及び教員組織の編成方針

共通科目運営委員会は、教務部長の元、全学部から委員が出ている全学横断組織である。

2. 現状（2010年度の実績）

(1) センター、委員会等として求める教員像及び教員組織の編成方針を明確に定めているか

①教員に求める能力・資質等の明確化

本委員会は、科目担当者の予備的選考に関する事項のみ審議している。

②教員構成の明確化

教員構成は教務部委員会に順じている。

③教員の組織的な連携体制と教育研究に係わる責任の明確化

共通科目運営委員会では、次に掲げる事項について審議している。

- 1) 学部間共通科目の設置に関すること。
- 2) 学部間共通科目の授業計画及び調整に関すること。
- 3) 学部間共通科目の授業の実施に関すること。
- 4) 前3号のほか、学部間共通科目に関し運営委員会が必要と認めたこと。

(2) センター、委員会等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①編成方針に沿った教員組織の整備

委員会において各学部、各関係機関との連携を強化し、学部間課目の共通化の基本方針についての諸方策について検討している

②授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備

現在、検討中

(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか

①教員の募集・採用・昇格等に関する規程及び手続きの明確化

本委員会は、科目担当者の予備的選考に関する事項のみ審議し、教員の募集・採用・昇格等については、教員の所属する学部の規程に準じている。

②規定等に従った適切な教員人事

授業を担当する教員、及び、総合講座の授業担当者の人事は、教員の所属する学部の規程に準じている。

(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか

①教員の教育研究活動等の評価の実施

教育支援開発本部の実施する、授業アンケートを実施している。

②FDの実施状況と有効性

現在、新しい評価項目にあわせて記述内容を検討中

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

特になし

(2) 改善すべき点

特になし

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

検討中

(2) 長中期的に取り組む改善計画

検討中

5 根拠資料

資料1 2010年度学部間共通総合講座シラバス

資料2 明治大学学部間共通科目運営委員会規程

IV. 教育内容・方法・成果

[IV-1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針]

1 目的・目標

(1) 教育目標

本学に設置されている多種多様、豊富な科目を科目設置学部以外の学生に開放し、共通化を推進することにより、学生にとっては幅広い科目の履修、所属学部には設置されていない科目の履修が可能にすることを目的としている。

共通語学科目については、本学でのロシア語、スペイン語の設置科目数は少ないため、共通化により、この科目の履修する機会を多く与え、体育実技科目の学部間相互乗入れについては、幅広い種目(卓球、ゴルフ、水泳、サッカー、剣道、フィットネス、アクアスポーツ他)の中から興味のある種目や所属学部では設置されていない種目について、履修する機会を与えることを目的としている。

学部間共通総合講座の教育目標は、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生諸君に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うことを教育目標としている。

(2) 学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

委員会において各学部、各関係機関との連携を強化し、学部間課目の共通化の基本方針についての諸方策について検討を進めていく。

2 現状(2010年度の実績)

(1) 教育目標に基づき、修得すべき学習成果の明示しているか

シラバスに明示している。

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか

学部により取り扱いが異なるため、総合講座のシラバスの他、各学部のシラバスにも明示している。

(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか

シラバスを4月には新入生全員に配布し、ホームページでも公開している。ホームページ、大学ガイド等によって社会に公表している。

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

年に3回開催する共通科目運営委員会にて、検証している。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

共通語学も、体育実技科目の学部間相互乗り入れもここ数年安定した履修者となっている。

(2) 改善すべき点

検討中

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

検討中

(2) 長中期的に取り組む改善計画

検討中

5 根拠資料

- 資料1 2010年度学部間共通総合講座シラバス
- 資料2 明治大学ホームページ
- 資料3 大学ガイド
- 資料4 明治大学学部間共通科目運営委員会規程

[IV-2 教育課程・教育内容]

1. 目的・目標

(1) 学部間共通総合講座について

①学部間共通総合講座の趣旨

社会の制度や仕組みが大きく変化するなかにあつて、本学の教育理念・目的は「個性を大切に、自立心の強い人材を育成する」ことにある。

学部間共通総合講座は、この教育理念・目的に基づき、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生諸君に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うことを主眼とするものである。本学

の全ての学生にとって有益となるテーマをそうした趣旨のもと多様な講座を設定している。

また、各々の講座は、各分野の第一線で活躍するゲスト講師を多数招き、現代社会で話題となっている事柄、最先端のホットなニュース等をテーマに取り上げている。

②共通語学科目について

共通語学科目としては、ロシア語前後期 12 コマ、中級スペイン語前後期 1 コマが設置されている。

③体育実技科目の学部間相互乗入れについて

選択体育実技科目の学部間相互乗入れを実施している。これにより、学生に対し、希望する種目の受講機会を拡大して提供することができた。

2 現状（2010年度の実績）

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①必要な授業科目の開設状況

1) 学部間共通総合講座は2010年度、3地区において、63講座を開設している。

2) 共通語学科目は、ロシア語 12 コマ（文学部設置科目 8 コマ、経営学部設置科目 4 コマ）、中級スペイン語 1 コマを開設している。

3) 選択体育実技は和泉に 63 コマ、駿河台が 6 コマと生田に 2 コマ設置しており、相互乗入れをしている。

②順次性のある授業科目の体系的配置

学部間共通総合講座は、(ア)地球市民講座、(イ)技術戦略とビジネス講座、(ウ)現代メディア講座、(エ)キャリアデザイン講座、(オ)歴史・哲学講座の5つの体系の講座を配置している。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学部間共通総合講座の運営方法については、一つの講座は、学年暦に従って授業が設定されており、講座ごとにテーマが設定されている。このテーマごとに、各々の分野のエキスパートが講義を担当し、結果として大きなテーマ（講座のタイトル）について総合的に理解することとなる。複数の講師から学ぶことにより、多角的なものを見方を養い、教科書では学べない多様な実地体験を聞けるといったメリットがある。学部間共通総合講座は、1995年度から開設しており、2010年度は、3地区において、63講座を開設し、前後期合わせて7,000名を越える履修者数を数えている。

②共通語学科目について

共通語学科目としては、ロシア語前後期 12 コマ（文学部設置科目 8 コマ、経営学部設置科目 4 コマ）、中級スペイン語前後期 1 コマ（文学部設置科目）が設置されており、ロシア語は、法学部・商学部・文学部・経営学部・情報コミュニケーション学部の学生、スペイン語は、政治経済学部・文学部の学生に受講する機会を提供している。

③体育実技科目の学部間相互乗入れについて

和泉地区は2000年度から、生田地区は2001年度から、駿河台校舎は2010年度から選択体育実技科目の学部間相互乗入れを実施している。これにより、学生に対し、希望する種目の受講機会を拡大して提供することができた。

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

学部間共通総合講座は、本学の全ての学生にとって有益となるテーマに沿って、多様な講座を設定している。

また、各々の講座は、各分野の第一線で活躍するゲスト講師を多数招き、現代社会で話題となっている事柄、最先端のホットなニュース等をテーマに取り上げているので学生の履修者が多い。体育実技の乗りいれについては他学部も含めて一斉に募集する方式へと改善を図り、学生の受講機会を拡げている。

(2) 改善すべき点

学部間共通にも履修者が20名以下の講座もあり、学部間共通科目として相応しいか見直しを進めていきたい。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

総合講座は講座開講申請書が整えば、開講できる仕組みになっているため、増えすぎた感のある講座に歯止めをかけるため、2009年度、学部間共通総合講座運用内規を作成し、これに基づいて運用する事とした。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

各学部・各機関から積極的に、より魅力ある斬新な講座を提供してもらい、学生の関心にも配慮したテーマを設定するとともに、今後とも広く学外からその分野の第一人者を講師として招聘し、受講生の知的好奇心を向上させ学問的成果を上げるよう努めていきたい。

5 根拠資料

資料1 2010年度学部間共通総合講座シラバス

[IV-3 教育方法]

1. 目的・目標

2 現状 (2010年度の実績)

(1) 教育方法および学習指導は適切か

①教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用

この講座は各学部の本学専任教員に加え、広く学外からリレー形式でその分野の専門家を講師として招聘している。

②履修科目登録の上限設定、学習指導の充実

総合講座は学部によって、また入学年度によって、履修登録の上限単位、等履修取り扱いが異なっているが、学部間共通総合講座や各学部シラバスに詳しく記述している。

③学生の主体的参加を促す授業方法

図書館活用法や、キャリア講座等実務的能力の向上を目指した講座も設置されている。

(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか

- ①シラバスの執筆要領等に基づく適切な作成と、設置基準等に基づく内容の充実
シラバスはコーディネーターの作成する講座計画書を講義概要としており、その他、各回の担当講師が自分の担当する回の内容を記述しているため、毎回の内容が一目で分かるようになっている。
- ②シラバスの適切な履行とその実態の把握（シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握方法等）
この講座は、経験豊富な本学教授陣に加え、広く学外からその分野の第一人者を講師として招聘し、シラバスに沿ってリレー方式で講義を進める「総合授業」として実施している。また、内容や担当が変わるときは、事前に委員会にかけ、学生に掲示等で周知している。

(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか

- ①厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
シラバスに成績評価の方法について詳しく記述している。
 - ②単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
総合講座では1週2時間、半期を2単位としている。
共通語学科目、選択体育実では、1週2時間、半期を1単位としている。
 - ③既修得単位認定の適切性
学部により、また入学年度により、履修できる上限単位数が異なり認定される科目数も卒業要件に含めるか否かについても学部ごとに異なっている。
- ## (4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか
- ①授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
特になし

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

個々の講座は各分野で活躍する講師を招き、現代社会で話題となっている事柄、最先端のホットなニュース等をテーマに取りあげている。この講座を履修することにより、知的好奇心が刺激され、自分が学んでいることの意義と目標を再確認し、学習意欲を喚起することができるようになる。

(2) 改善すべき点

学部の教育理念によって、その科目の位置付け、捉え方に差異があるため、その科目の取扱い方、履修可能な上限単位数、卒業要件に含むか否かについては、学部ごと、入学年度ごとに異なっているのが現状である。

特に、和泉開講の学部間共通総合講座は、履修者の増加に伴い、講座の履修制限や受講制限等を行っている講座がでてきているが、希望者が全て履修できるようにしていきたい。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

特になし

(2) 長中期的に取り組む改善計画

学部の教育理念によって、その科目の位置付け、捉え方に差異があるため、その科目の取扱い方、履修可能な上限単位数等については、学部ごとに異なっているので、将来的にはどの学部の学生も等しく希望する講座を共通科目運営委員会では、履修できるようにしていきたい。

5 根拠資料

資料1 2010年度学部間共通総合講座シラバス

[IV-4 成果]

1. 目的・目標

(1) 教育目標に沿った学習成果の測定基準

本章第1項「教育目標，学位授与方針，教育課程の編成方針」に示したように，本学の理念・目的を達成するために，本学部では人材養成目的(教育目標)を定め，この実現のために，教育方法・内容の工夫等を行っている(本章第1項参照)。学習成果の測定基準は，本委員会が目指す人材像の実現に向けて，具体的到達目標を学部間共通総合講座のシラバスに以下のとおり明示している。

社会の制度や仕組みが大きく変化する中であって、本学の教育理念・目的は「個性を大切にし自立心の強い人材を育成する」ことにあります。

学部間共通総合講座は、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的授業を提供することにより、学生の学問的視野を広げ、問題発見能力や判断力を養うものです

2 現状(2010年度の実績)

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか

① 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用

授業担当者ごとにアンケートを行ない、授業に対する満足度を調査している。

② 学生の自己評価，卒業後の評価(就職先の評価，卒業生評価)

3 評価

(1) 効果が上がっている点

(2) 改善すべき点

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

(2) 長中期的に取り組む改善計画

5 根拠資料

資料1 学部間共通総合講座シラバス

Ⅸ 管理運営・財務

[Ⅸ-1 管理運営]

1. 目的・目標

(1) 管理運営方針

現在，検討中

2. 現状（2010年度の実績）

(1) 大学の理念・目的の実現に向けて，管理運営方針を明確に定めているか

委員会において各学部，各関係機関との連携を強化し，学部間科目の共通化の基本方針についての諸方策について検討を進めていく。

(2) 明文化された規定に基づいて管理運営を行っているか

①関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用

学部間共通科目運営委員会規程に基づき運用している。

②委員長等の権限と責任の明確化

学部間共通科目運営委員会規程には以下のように定めている，

1) 委員長及び副委員長各1名を置く。

2) 委員長は，第3条第1項第1号の委員をもって充て，副委員長は，委員のうちから委員長が指名する。

3) 委員長は，会務を総理する。

4) 副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，その職務を代行する。

5) 委員長等の選考方法の適切性

(3) 大学業務を支援する事務組織が設置され，十分に機能しているか

駿河台・和泉・生田の各キャンパスに担当者がおり，委員会の運営，学部間共通総合講座の運営，シラバスの作成及び掲示等を行っている。

(4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか

特になし

3 評 価

(1) 効果が上がっている点

(2) 改善すべき点

三地区で運営事務担当部署が異なっており，コーディネーター，担当講師（特に学部間共通総合講座の場合，学外講師が多い）が戸惑うことも多く，また，事務的にも業務担当部署の共通化がないため遂行がし難い現状である。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

(2) 長中期的に取り組む改善計画

5 根拠資料

資料1 学部間共通総合講座シラバス

資料2 明治大学共通科目運営委員会規程

X 内部質保証

1. 目的・目標

(1) 内部質保証の方針

現在，検討中

2. 現状（2010年度の実績）

(1) センター，委員会等の諸活動について点検・評価を行い，その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか

① 評価に関する委員会等の設置（名称，メンバー，年間開催回数）

| 委員会等の名称 | 主なメンバー，人数 | 開催日 |
|-----------|--------------------------------|-------------|
| 共通科目運営委員会 | 教務部長（委員長），各学部の教授 | 2010年 6月 3日 |
| | 会から推薦された専任教職員各1名、教務部委員会が必要と認めた | 同 9月10日 |
| | 授業科目を担当する選任教員 若干名 合計15名 | 同 10月28日 |

・2010年度学習支援報告書、冊子配布、ホームページで公表予定

(2) 内部質保証に関するシステム（内部質保証を掌る組織，改革・改善につなげる制度，改善実績）を整備しているか

共通科目運営委員会を年に3回開催し，自己点検・評価を改革・改善につなげるシステムは，この共通科目運営委員会があたっている。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

特になし

(2) 改善すべき点

検討中

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

検討中

(2) 長中期的に取り組む改善計画

従来から機能してきた組織を内部質保証システムの観点から，改めて見直し，新たなシステム化を図ってゆく。

5 根拠資料

資料1 自己点検・評価報告書

資料2

資料3